

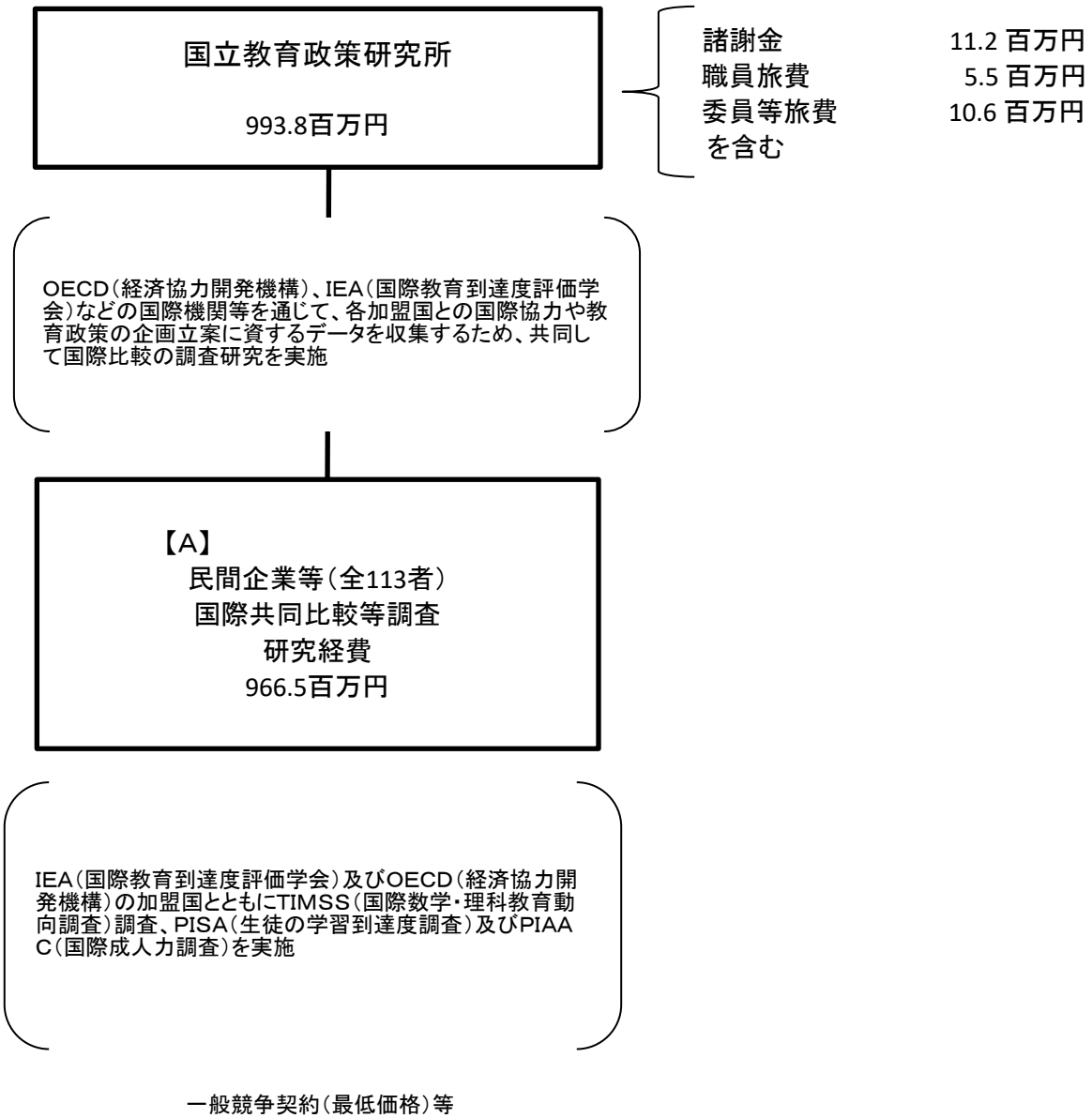
事業番号

2023 - 文科 - 22 - 0013

	令和5年度行政事業レビューシート					(文部科学省)	
事業名	国際研究協力経費			担当部局庁	国立教育政策研究所		作成責任者
事業開始年度	平成13年度	事業終了 (予定)年度	終了予定なし	担当課室	国際研究・協力部		国際研究・協力部長 大野 彰子
会計区分	一般会計						
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	文部科学省組織令 第81条			関係する 計画、通知等	新たな教育振興基本計画(令和5年6月16日閣議決定)		
政策	1 新しい時代に向けた教育政策の推進			主要経費	科学技術振興費		
施策	1-1 教育分野に関する客観的根拠に基づく政策立案の推進						
政策体系・評価書URL	https://www.mext.go.jp/content/20221215-mxt_kanseisk01-000026547-01.pdf						
事業の目的 (5行程度以内)	本事業は、OECD(経済協力開発機構)が数年に1度のサイクルで行っているPISA(生徒の学習到達度調査)、PIAAC(国際成人力調査)、TALIS(国際教員指導環境調査)、TALIS SS(国際幼児教育・保育従事者調査)と、IEA(国際教育到達度評価学会)が行っているTIMSS(国際数学・理科教育動向調査)の主に5つの国際比較調査を日本を代表して実施し、データ集計・分析を行った上で、調査結果を公表することにより、他の調査参加国と比較した日本の現状・課題を明らかにし、教育政策の企画立案に資する客観的で信頼性の高いデータを広く提供することを目的としている。(なお、各調査への参加については、主に文部科学省が決定している。)						
現状・課題 (5行程度以内)	国際比較調査への参加国は増加傾向にあり、世界の主要国の多くが参加している。特に、過去の調査において上位の結果を得ている日本は、調査結果の比較対象として期待されており、参加を強く求められている。また、国際的に通用する客観的なエビデンスとして文部科学省のみならず関係省庁における国内の諸政策における各種指標として採用され、日本の学力・能力の高さの証明となっている。 各調査はコンピュータ使用型調査に移行している段階であり、従来は取得困難だったデータを得ることや解答過程の詳細な分析が可能になってきているが、その分調査が高度化・複雑化してきており、所要経費の増大、調査参加者の確保、入札参加業者の確保が課題となっている。						
事業概要 (5行程度以内)	本事業は、OECDやIEAなどの国際機関を中心に、加盟国と共同して教育成果や教育政策について国際比較の調査研究を行う事業である。 令和6年度は調査の公平性・公正性確保のため定められている国際基準に従い、①TALIS SS2024の本調査と②PISA2025の予備調査を実施するとともに、令和4・5年度に本調査を実施した③PIAAC2022、④TIMSS2023、⑤TALIS2024についてデータ分析等を行う。また、国際チューニング・アカデミーの依頼を受けた⑥大学教育の質保証に関する研究も引き続き実施する。 なお、①は2016年から、②は1998年から、③は2009年から、④は1995年から、⑤は2011年から、⑥は2015年から実施している。						
事業概要URL	https://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/oecd_iea.html						
実施方法	直接実施、委託・請負、その他						
補助率等	-						
予算額・執行額 (単位:百万円) (インプット)			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求
	予算の 状況	当初予算(A)	503.6	475.3	1,028.1	372.5	362.5
		補正予算(B)	-	120.3	-	-	
						-	
						-	
						-	
						-	
						-	
		前年度から繰越し(C)	-	-	46.4	-	-
		翌年度へ繰越し(D)	-	▲46.4	-	-	
		予備費等(E)	-	-	-	-	
	計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	503.6	549.2	1,074.5	372.5	362.5	
	執行額(G)		318	509.4	993.8		
	執行率(%) =(G)/(F)		63%	93%	92%		
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) =(G)/[(A)+(B)]		63%	86%	97%		
令和5・6年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算項・目		令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由(・要望額・予備費)		
	(項)		国立教育政策研究所		-		
	(目)	試験研究費	326.	317			
	(目)	委員等旅費	17.7	13			
	(目)	職員旅費	15.1	13			
	(目)	諸謝金	11.1	18			
	(目)	外国人招へい旅費	2.2	2			
	(目)	招へい外国人滞在費	0.4	0			
		その他		▲ 0			
	計(A)		372.5	362.5			

活動内容① (アクティビティ)		OECD(経済協力開発機構)、IEA(国際教育到達度評価学会)などの国際機関等を通じ、教育成果や教育政策に関する国際比較の調査研究を行い、教育政策の企画立案に資する客観的で信頼性の高いデータと分析結果を広く国民に提供する。								
↓										
活動目標及び活動実績 ① (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		国際的に定められた基準・スケジュールに従い、国際比較調査を着実に実施する。	実施調査の件数	活動実績	件	5	5	5	－	－
				当初見込み	件	5	5	5	5	5
↓	成果目標①-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)	調査結果を文部科学省及び国立教育政策研究所のホームページに掲載することによって広く周知するため、ホームページのアクセス数を短期アウトカムとして設定した。								
成果目標及び成果実績 ①-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 5 年度	
		国際比較調査の結果をHPにて周知し、広く活用される。	国際比較調査HPアクセス数	成果実績	件	304,126	203,308	148,216	－	
				目標値	件	180,000	200,000	200,000	250,000	
				達成度	%	169	101.7	74.1	－	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		ホームページのアクセス数								
↓	成果目標①-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)	国際比較調査の結果を公表し、日本の現状、課題について広く周知することにより、文部科学省等における政策に活用され、教育の改善・充実に資する。国際比較調査の結果は様々な要因で変動するため、本事業の状況を計測する参考指標として設定した。								
成果目標及び成果実績 ①-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 8 年度	
		PISA、TIMSSにおいて、教育振興基本計画(令和5年6月16日)に記載された水準を目標とする	PISA、TIMSSにおける順位	成果実績	位	－	－	－	－	
				目標値	位	－	－	－		
				達成度	%	－	－	－	－	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		目標値の根拠 教育振興基本計画(令和5年6月16日)P39: https://www.mext.go.jp/content/20230615-mxt_soseisk02-100000597_01.pdf 国際比較調査の結果 PISA: https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/index.html#PISA2018 (PISA2018では、OECD加盟国37か国中、数学的リテラシー1位、科学的リテラシー2位、読解力11位) TIMSS: https://www.nier.go.jp/timss/index.html (TIMSS2019では、小学校58か国中、算数5位、理科4位、中学校39か国中、数学4位、理科3位)								
アウトカム設定について の説明		アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由								
		－								
		アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由								
		－								

資金の流れ
(資金の受け取り先が
何を行っているかにつ
いて補足する)
(単位：百万円)



費目・使途
(「資金の流れ」において
ブロックごとに最大の金
額が支出されている者につ
いて記載する。費目と
使途の双方で実情が分
かるように記載)

A.			B.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
雑役務費	国際成人力(PIAAC)第2サイクル本調査実施一式	554			
計		554	計		

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

チェック

